

今日のみ言葉 273 「今日という日のうちに、日々 励まし合いなさい。」

2017.10.11

あなた方のうち誰一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい。(ヘブライ人への手紙3の13)

Every day, as long as this today lasts, keep encouraging one another so that none of you is hardened by the lure of sin,

罪の力に惑わされて心が、神の愛や真実に対して心動かされなくなる。そうした最も重要なことに関して反応しなくなる固さが生じないように、一日一日を大切にする。それは、自分だけが心して生活する—というように思いがちであるが、ここでは、とくに「互いに励まし合う」ことの重要性が言われている。

自分の力や意志だけでは、本当の真理や愛から離れていくことがある—それは、私自身、知人において実際に見てきたことである。

自分だけの意識や努力では足りないということはいくらでもある。この世で生きていくことは、たくさんの人たちによって助けられ、教えられ、支えられてできることで、信仰に生きることににおいても同様である。

キリスト者が、その信仰を維持できてきたのは、本人の祈りと意志とともに、周囲のさまざまな人たちの祈り、励まし、援助...等々により、神がそのことを祝福し、支える力を与えられてきたからでもある。

キリストも、「二人、三人私の名によって集まるところに私はいる」と言われた。これは、単独でなく、複数の人たちが、主を信じ、主を仰ぎつつ集まるところに、主がいてくださるということである。

このことは、最小限二人または三人でもいいから、互いに祈り合い、互いに励まし合い、互いに仕え合う...ということがいかに重要であることを指し示す言葉である。

使徒パウロも、絶えず祈れ、と祈りが日々のつとめであることを教えているが、それとともに、「私のためにも祈ってください」(テサロニケ5の17、25)と願っていて、祈りは互いになされることが示されている。

さらに、「私たちが目覚めていても、眠っていても、主とともに生きようになるために、あなた方は、励まし合い、互いが造り上げられるように心がけなさい。」(*)と述べている。

また、「あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。互いに重荷を担いなさい。」(**)とも言われている。

このように、キリストを信じる人たちは、キリストのからだ、というべき存在なので、からだの一つの部分の痛みは全身の痛みとなり、喜びも同様に全体の喜びとなる—それがあるべき姿だと言われている。

、互いに励まし合うことは、互いに祈り合うことを含んでいるので、一日一日がそのようになされていくべきことを、今日の聖句は指し示している。

(*) テサロニケ5の10~11より (**) ガラテヤ書6の2



シラネアオイは、高山に咲く花として、とくに愛されているものの一つです。その柔らかな淡紅色の花と大きな葉、それらは、見るものの心を包み込むような柔和さがあります。

この花を見るために、高い山に毎年のように登る—といった人の文を読んだことがあります。花にそれほどの関心がもてない人には、時間と費用、そしてエネルギーを注いで、単に特定の花を見るために登る—など考えられないのではないかと思います。

しかし、愛する花は、一目見るだけでも心がどこか満たされる—ということがあります。次は、「星の王子さま」にある言葉です。

...だれかが、200まんの星のなかにもふたつとない、どれか一輪の花を愛するようになったなら、そのひとはきっと、星空をながめるだけで幸せになれる。『あのどこかに、ぼくの花がある.....』って思えるから。...

聖書のなかには、神の御顔を仰ぎたい、そうして深く満たされたい、という切実な願いが記されています。神は、愛や真実そのものであるだけでなく、このような美しい花を創造された美の根源でもあるのです。

... わが魂は生ける神を求めて慕い、渴く。

いつ、わたしは御前に出て神のみ顔を見ることができようか。(詩篇42の2)

...わたしは正しさを認められ、御顔を仰ぎ望み、目覚めるときには御姿を拝して満ち足りるでしょう。(詩篇17の15)

(文、写真ともT.YOSHIMURA)